



森下仁丹

報道関係各位

2014年1月14日
森下仁丹株式会社

「ラクトフェリン、ラクトパーオキシダーゼ配合タブレット摂取による唾液量変化に関する調査」を実施

ラクトフェリン、ラクトパーオキシダーゼ配合タブレットの 唾液分泌量増加作用を確認

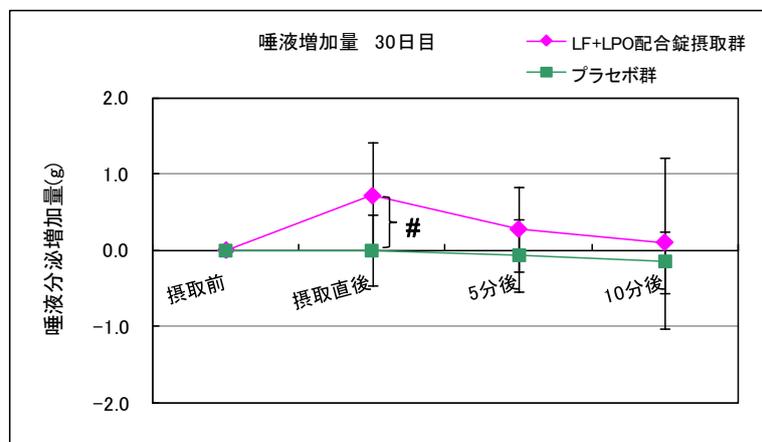
ラクトフェリン本来の抗菌作用と合わせ、口臭対策における有効性を示唆

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中央区/代表取締役社長:駒村純一)は、20代から60代の男女計20名を対象に「ラクトフェリン、ラクトパーオキシダーゼ配合タブレット(以後、LF+LPOタブレット)摂取による唾液量変化に関する調査」を実施しました。この調査の結果、LF+LPOタブレット摂取による唾液分泌量の有意な増加が確認されたことから、口臭対策における有効性が示唆されました。

■プラセボとの対照実験で、LF+LPO タブレット摂取直後に唾液分泌量の増加を確認

被験者を10名ずつ2グループに分けて、一方のグループにはLF+LPOタブレットを、もう一方のグループにはLF+LPOを含まないプラセボタブレットをそれぞれ30日間摂取してもらいました。

その結果、試験30日目の測定結果において、プラセボタブレット摂取群には目立った唾液分泌量の増加が見られなかったのに対し、LF+LPOタブレット摂取群には摂取直後に有意な増加が確認されました。



30日目試験食の摂取前からの変化量を示す
平均値±標準偏差(n=20)
#:p<0.05; プラセボ群との比較 t-test
仁丹バイオファーマ研究所調べ

[考察]

ラクトフェリンは、経口摂取により体内で強力な抗菌作用を発揮し、口臭のもととなる歯周病菌などをはじめとする悪玉菌の活性を奪うことが、これまで数々の研究で報告されています。また今回 LF+LPO タブレットによって分泌量増加が確認された唾液にも、口臭の元となる口腔内の雑菌を洗い流す役割があることから、口臭対策における有効性が示唆されます。

【リリースについてのお問合せ先】

森下仁丹株式会社 広報宣伝G 担当:磯部・本山 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108
共同PR株式会社 第四業務局 担当:長尾・呉 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-1005



[ラクトフェリンと口腔環境]

ラクトフェリンは唾液や乳中などの外分泌液に含まれ、抗菌活性や免疫調節活性などをもつ多機能なたんぱく質です。しかし、加齢に伴い唾液の分泌量は減少するため、唾液中のラクトフェリン量も減少することがわかっています。また、日本人の成人の約8割がかかっているとされる^{※1} 歯周病も、加齢に伴い患者数が増加するといわれていますが、唾液が加齢に伴い減少することも原因の一つとされています。さらに、歯周病の原因菌は増加すると、口臭の原因にもなるため唾液の量は口臭予防の点からも重要な役割を果たしています。

これまでの研究において、ラクトフェリンと乳由来の抗菌成分ラクトパーオキシダーゼの摂取により唾液の量や、唾液のサラサラ度が改善したと報告されています^{※2}。

※1:厚生労働省、平成 17 年歯科疾患実態調査

※2:清水ら、歯科東洋医誌、30(1),2,2011

[試験方法]

本研究は 20 代～60 代(平均年齢 41.3 歳)の健康な成人男女を対象に、LF+LPO 配合タブレット摂取群(10 名)またはプラセボタブレット摂取群(10 名)に無作為に割り付けました。試験食は 1 日 3 回で 1 回に 1 錠ずつ、ゆっくり噛んで摂取するように指示し、これを 30 日間行いました。摂取期間中は定期的に唾液量について、サクソン試験法にて試験食の摂取前・摂取直後・5 分後・10 分後を測定し、検証を行いました。

[試験食]

LF+LPO 配合タブレット(1,000mg/粒)を、プラセボタブレットは LF+LPO を含まず、マルチトール等で作成し、毎食後 1 粒ずつ 30 日間摂取しました。

弊社は今後も研究開発を進めるとともに、安心で安全な商品をご利用頂けるよう更なる安全性・信頼性の向上を図り、皆様の健康増進に寄与して参ります。